

コロナ感染終息を みすえて思うところ



帯広市医師会
進藤医院

しん どう あつ し
進 藤 敦 史

この度帯広市医師会より執筆を依頼されたので、昨今のコロナ禍で思うところ書かせていただくことにする。

新型コロナウイルス感染が拡大し、緊急事態宣言や長期のまん延防止等重点措置期間が続き外出自粛、巣ごもり需要の拡大から生活スタイルが大きく変化しているようだ。特に飲食店は外食需要の減少が著しくテイクアウト、出前配達へのシフトが進んだ。家庭でも家庭菜園やDIY需要が高まっているそうだ。我が家にも放置された家庭菜園があり、耕作放棄地のままにしておくのはもったいないので、手のかからない初心者向きの作物を植えることにした。わずかな土地でも荒れた土地をスコップとクワで耕すのはなかなか大変なものであった。数日かけて何とか形にすることができたため、ミニトマト、キュウリ、ししとうの苗とタネイモのメークイン、きたあかりを購入してきた。漫画『十勝ひとりぼっち農園』を読んで勉強しながら、時々草むしりをして添え棒をたてる程度の手間で十分すぎる収穫が得られた。今年は少し農地を拡大したので、えだまめやとうきびなどの種も植えてみたがはたしてどうなるか？ 秋の収穫時期が今から楽しみになっている。

高齢者を中心にワクチン接種も進み、現在では昨年末からの感染第6波による感染者数もようやく減少傾向となり、徐々に制限解除が行われている。感染拡大のもとになったと批判されたGoToトラベル類似事業の再開も検討され始めているようである。2020年開催予定であった東京オリンピックは2021年に1年間延期され無観客で行われたが、今になって野球、サッカーなどのスポーツも有観客、入場制限なしに戻りつつある。今年は3年ぶりにサッカー、北海道コンサドーレ札幌のアウェイ観戦の計画と道内道の駅スタンプラリーの再開計画が実践できることを願って終わりにさせていただく。

カラスとの闘い



旭川市医師会
旭川厚生病院

お がわ ゆう じ
小 川 裕 二

私は庭いじりが好きです。ただし、趣味というほどのめり込んでいるわけではなく、なんとなく季節の変化とともに木々が成長していくのを見るのが好きな程度です。植えているのは、寒冷に強く育てるのが簡単なこと、花を付け、秋には紅葉する庭木を主に植えてあります。そんな私のささやかな楽しみが奪われる事件が数年前に起こりました。

振り返ること、4年前の4月末にGWにつなげて休みを取りました。目的は弘前城と松前城を回る桜見物でした。旭川に戻ってきたのがGW半ばで、後半は庭いじりでもして過ごそうと思っていたのですが、なにやら庭の異変に気づきました。それは、新芽が膨らんだばかりのつつじの枝があちこちで折れており、地面に散らばって無残な姿になっていました。その瞬間、楽しかった旅行の気分が一気に吹き飛びました。いったい、何が起こったのか。数日間、わからないままモヤモヤした気持ちで過ごしていました。

数日後、ふと庭の方を見ると、いつもはごみ袋を突っついているカラスが、なんと我が物顔で庭に侵入しており、くちばしに芽をつけたつつじの枝を加えていたのです。「こいつかー」と私は心の中で叫びながら、はだしで外に出てカラスを追い払いました。これがカラスとの闘いの始まりです。

まず、カラス撃退法というワードでググりました。その結果、いくつかカラスの特徴や習性がわかりました。カラスは体の大きさの割に脳が大きく、ヒトでいえば7歳児くらいの知能があることのようにです。

さて、カラス撃退法として、カラスは反射して光るものが苦手ということなので、CDをつるしてみましたが全く警戒せず。次に、Amazonで購入した黄色のカラスバスターを使用しました。しかし、あろうことにつるした枝の上に何事もないように止まって庭を覗いていたのです。こちらも意地があります。次の一手として、鳥よけステンレス針金スパイクという、なんとも刺さると怪我をしてしまいそうな代物を購入。これは私自身もうかつに近づけないという欠点はありましたが、これが有効でした。それ以後、カラスは我が家に全く近づかなくなりました。

カラス対策にはいろいろあるようですが、カラスなどの野鳥は鳥獣保護管理法により駆除することはできないので、危害を加えないように対応しています。会員の皆さんのなかで、このような経験をされた方はいませんか。いい撃退法があれば教えてください。